

2025 年度横浜市立大学学術研究会総会議事録

日時：2025 年 6 月 26 日（木）17：00～17：45

開催形態：ハイブリッド

会場：金沢八景キャンパス 文科系研究棟 2 階 第二会議室

オンライン：Zoom 利用

出席者：（対面）鞠、後藤、藤井得弘、

（Zoom）岩佐、江上、川瀬、佐藤、田場、杜、中谷、根岸、服部、
藤崎（途中から参加）

以上 13 名

委任状：51 通

※以下、本総会での議決を**創英角ゴシック体**で示す。

議 題

1. 定足数の確認、議長／議事録署名人選出

出席 13 名、委任状 51 通により、定足数を満たしていることを確認した（総議決権数は 98）。

鞠先生を議長に選出し、田場先生と根岸先生を議事録署名人に選出した。

2. 2025 年度役員の選任

資料1

原案のとおり、2025 年度役員が選任された。

3. 2024 年度活動報告

資料2

事務局より 2024 年度の活動報告がなされ、出席者一同、了承した。

4. 2024 年度決算報告

資料3—①、②

事務局より 2024 年度の決算報告がなされた。
出席者一同、報告内容を了承した。

5. 2024 年度監査報告

(1)会計監査報告

資料4

(2)業務評価報告

資料5

所用のため、藤崎先生（会計監査人）の到着が遅れたため、代理として鞠議長より 2024 年度会計監査報告および業務評価報告がなされた。

会計監査では、会計処理に関しては何ら問題ないことがまず報告された。ただ、単年度赤字が続いていることにより、内部留保金の底が見えてきた。数年のうちに収支を均衡させないと会は存続の危機にさらされると予測する。収入を増やさずに収支均衡をはかるには事業の縮小も考えられるが、どの事業を縮小するかを決めるのは困難。事業の縮小をせずに収支均衡を目指すには収入の増加、すなわち学生会費の額を元に戻すことがよいとの指摘があった。

業務評価では、日常の業務が適切に行われているが、今後の課題として以下 3 点の提案がなされた。

- ① 申請方法の電子化、手続きや書類の電子化への切替
→ 対応可能なものはすでに実施済であると、事務局が報告した。
- ② 運営委員会議事録に発言者や議題対象者の氏名が掲載されているが、個人情報保護の観点から、議事録には氏名を明記しない形式に改める
- ③ 当会の説明をする際に文章中心の資料では活動イメージが掴みづらいため、画像を中心としたポスター（スライド）を作成し、活動説明に用いることを検討する

以上の点を含め、出席者一同、了承した。

6. 2025 年度事業計画及び予算案審議

資料6

資料7

事務局より事業計画案と予算案について説明がなされた。
出席者一同、原案のとおり、承認した。

7. 文書管理規程の制定について

資料8

事務局より「文書管理規程」の制定に関する原案が提示され、以下のとおりその説明がなされた。

- ・過年度の業務評価で文書管理規程の制定が要請されていた。
 - ・文書の保存に関する定めがないため、事務局としても対応に苦慮していた。
 - ・原案は本学の文書管理規程を参考に作成した
 - ・過去の経過がわかるように、議事録等重要な書類は 30 年保存としている。
- 以上の説明を受け、出席者一同、原案を承認した。

8. 規程の改定について

資料9

(1) 学術論文投稿費補助規程

資料 10

(2) 博士論文印刷・製本費用補助規程

資料 11

事務局より「学術論文投稿費補助規程」と「博士論文印刷・製本費用補助規程」の改定に関する原案が提示され、以下のとおりその説明がなされた。

- ・2024 年度から申請様式等の電子的提出を可能とするための様式変更を行っている。
- ・内規の変更等運営委員会で対応可能なものは実施済である。
- ・総会の議決が必要な規程の改定が今回の 2 つである。
- ・申請書等に署名・捺印が規定されているものを、記名・捺印不要としてその文言を削除したものである。

以上の説明を受け、出席者一同、原案を承認した。

9. その他

その他の議題を募ったが、なかった。

以上、2025 年 6 月 26 日開催の総会の議事内容に相違ありません。

2025 年 7 月 10 日

議事録署名人氏名： 田端 弓子



2025 年 7 月 15 日

議事録署名人氏名： 根岸 了

